

## 平成 21 年度 第 1 回 備前市公共交通会議 議事概要

1. 日 時：平成 21 年 12 月 22 日(火) 13 時 30 分～15 時 16 分

2. 場 所：備前市役所 3 階 大会議室

3. 出席者：(敬称略)

(委 員) 西岡憲康、馬場鉄二、竹中史朗、大本一栄、香西正巳、村合英二、宮本国昭、  
宇治橋昭彦、更谷暢久、井川勳、井上邦允、寺見史朗、山本啓之、澤邊和美  
以上 14 名

(専門員) 藤本陽、石畑浩徳、大森文男、青井尚美

(事務局) 企画課、教育委員会職員 5 名

欠席者：(敬称略)

(委 員) 宇野泰正、瀧川桂三

傍聴人：6 名(うち報道 3 名)

### 4. 議 事

会長挨拶

委嘱状交付 新任委員 4 名

出席者の紹介

副会長の選出 副会長 宮本国昭

幹事の選任 馬場、大本、村合、宮本委員(4 名)

協議事項

(1) 会議規程について(提案協議)

(2) 備前市公共交通会議について(説明協議)

(3) 備前市内の公共交通体系について(説明協議)

(4) 市町村運営有償運送(市営バス和意谷線)について(提案協議)

(5) バス停の整備について

その他

### 5. 合意事項

会議規程について承認

市営バス和意谷線の減便案について承認

## バス停の整備（伯父奥バス停延長、日生病院バス停整備）について合意

### 6.【会議要旨】

#### 協議事項

#### (1) 会議規程について（提案協議）

##### 《事務局からの説明》

備前市公共交通会議に傍聴人の決定方法等を定めた会議規程を定めるため、提案。この規程は、備前市公共交通会議設置要綱第11条に「公共交通会議の運営に関して必要な事項は、会長が公共交通会議に諮り定める」としており、交通会議に諮るもの。

##### 《質問・意見》特になし

#### (2) 備前市公共交通会議について（説明協議）

##### 《事務局からの説明》

備前市公共交通会議について、その設置経緯、役割等について簡単に説明。

平成18年10月の道路運送の改正により、市町村の直営又は委託により運行してきたバスの許認可等にあたっては、地域の需要に即した運行形態等について協議する「地域公共交通会議」の設置が必要となったことから、同年10月に設置。

##### (目的)(協議事項)(公共交通会議の構成員)について要綱に基づき説明。

委員の任期は2年間で、備前地域の実情に即した、輸送サービスの実現に向け必要な事項について協議する。地域のバス交通などは、地域で考え、作り、守り、育てるということから、地域内で新たに路線を増やす、運賃を変える、その態様を変える、大幅にダイヤを変える様な場合は、この会議に諮り協議を調える必要がある。そのメリットとしては、運輸局での審査期日の短縮、運賃については届出となる。またその内容は公開する。

昨年度までの公共交通会議の経緯は平成18年に設置され、19年度までに計4回の会議を開催。運賃、路線の新設及び延長、路線増便、減便、ダイヤ改正、停留所の設置、箇所変更等利用者の要望等も取り入れながら行っている。

##### 《質問・意見》特になし

#### (3) 備前市内の公共交通体系について（説明協議）

##### 《事務局からの説明》

市内バス路線図で備前市内の公共交通体系について簡単に説明。

市内には大きく分けて備前バスの路線が6路線、宇野バスの路線が1路線、片鉄沿線バスが1路線、市営バスが通学バスを含めて4路線ある。

備前バスの路線は、市が運行補助を行っている路線で、

- ・八塔寺から吉永病院間の「八塔寺線」(平日5.5便)
- ・吉永病院から福石上間の「福石線」(平日3便)
- ・片上から吉永病院間の「吉永線」(平日2便)
- ・備前病院、片上から備前片上、伊里中、伊里小、蕃山、八木山、三石間の「三石線」  
経路地が複雑となっているため、便数としての把握が難しいが、  
(平日5便)
- ・片上から久々井方面、青石、長船駅間の「東鶴山線」(平日6便)
- ・片上から福浦峠間の「日生線」(平日12便)

宇野バス路線は

- ・片上から岡山間(平日17便)

片鉄沿線バス路線は

・片上、柵原間（平日 5 便）

市営バスは

・東畑、飯掛下間の「三国東西線」（平日 5.5 便）

・牛中、吉永小学校経由、吉永病院間の「和意谷線」（平日 4.5 便）

・佐山、備前中学校間の通学バス「備前中学校線」（平日 登校時 2 便、下校時 2 便）

・久々井、伊部小学校間の通学バス「伊部小学校線」（平日 登校時 1 便、下校時 2 便）

以上 12 のバス路線がある。路線名、区分については、事務局で説明の為に便宜上設定しているため、実際の路線名、路線数とは異なる。

《質問・意見》特になし

### （3）市町村運営有償運送（市営バス和意谷線）について（提案協議）

《事務局からの説明》

和意谷線はスクールバス運行を目的として、旧吉永町の折から運行しており、一般の方も便乗する形で運行している。来年度より、路線区間内にスクール通学者がいなくなるため、スクールバスとしての運行の必要がなくなるが、一般の方々、特に高齢者の生活の足ともなっており、運行の必要性があると判断し、引き続き運行を維持するため、利用実態に近づける形で、減便した上で運行を継続していくための提案を行うもの。現行の平日往復 4.5 便、土曜 2 便を、火曜、金曜のみの運行で 1 日往復 2 便とするもの。

現在、運行主体は備前市、日生運輸(株)に運転委託している。運行区間は飯掛下～吉永病院の区間 16Km。週 6 日運行。運賃は一律 100 円。

年間利用者の推移は、平成 17 年度が 5,789 人で平成 20 年度が 1,897 人となっており、通学者数の減少とともに利用者が激減している。運行経費も年間で 5,084 千円、運行収入 94 千円、差し引きの市負担額が 4,990 千円となっており、1 乗車あたりの市負担額はスクール利用を含めた場合、2,631 円。一般利用者のみで算定すると 5,320 円となり、来年度以降も同じような運行を続けていくことは非常に非効率である。

本年 9 月 14 日（月）～19 日（土）の間において実態調査を実施した。1 週間（6 日間）の利用延べ人数は 19 人（スクール利用 8 人を含む）そのうち月曜日、木曜日、土曜日の一般利用者は 0 人、また、月曜日、土曜日はスクール利用もなく 1 日運行しても誰も乗っていないという結果が出ております。

1 日平均の利用者数は 3.17 人（スクール利用含む）1 日平均利用者数 1.83 人（一般利用のみ）で、1 Km あたりの平均乗車人数は、平成 20 年度の場合、0.6 人、平成 21 年度推計値は 0.5 人、平成 22 年度の推計値（現行ダイヤで運行の場合）0.3 人となる。

現行ダイヤを利用実態にあわせた形で改正し、効率的な運行を目指したい。改正案で本年までと同様の数の利用者に利用していただくとすると 1 Km あたりの平均乗車人数は 1.7 人となる。

ダイヤの改正を行うことについては、地元区長等に説明。区長を通じて周知していただいた。又、説明希望のあった牛中地区には地元で説明会を行い、そのなかでの要望を反映させた形でのダイヤとしている。

なお、今回の改正ダイヤ(案)は JR のダイヤ改正が来年の 3 月までに予定されているため、今後 JR 改正ダイヤにあわせた時刻に変更することがあります。

《質問・意見》

会長（補足）和意谷線については通学者がいなくなるということである。毎日の運行で

できれば一番よいのだが、非効率であるということから、データにもとづき比較的乗車人数の多い火曜日と金曜日に運行して、それに皆さん合わせて乗っていただくという

形での改正案である。

今後、75歳を超える高齢者が増加していく形になれば、病院へ行かなければならないが、逆に運転ができなくなる。そういう方が増える地区がけっこう出てくる。そうしたことから、路線バス等アンケートやデータを集めたりしながら、ウィークデイ毎日でなく週に2日ぐらいに集約化して乗ってもらう。そういう形でもとらないと対応できないと考えている。他の地区に関しましても、今後はそういう形での路線バスも増えてくるんじゃないかと思われる。

委員 地元の意見はどうだったか。

会長 アンケートなどを取ると利用者は個人の都合のいい時間で要望する。千差万別とはいわないまでも、それをすべて聞いていると収集がつかなくなる。和意谷線の利用者は10人程度であり、週2日にあわせて乗ってもらう、集約してもらうようにした。

事務局 今回のダイヤ改正では、かねてから利用者から要望のあった平日便で、午前中に用事が済ませる便が必要ということで、飯掛下を8:15分に出て吉永病院へ行き、病院や買い物の用事を済ませてお昼の便で帰るというダイヤを組ませていただきました。

牛中地区での説明会では、さらに午後の便も是非運行してほしいということで、今回の改正案で、お昼に飯掛下を出て午後4時30分に吉永病院から飯掛方面に帰る便を設けております。ただ、この便については、あまりにご利用が少ない、たとえば1週間に1人も利用がないというような状況ですと、ガソリン代等の経費もかかりますので、地域の公共交通は地域で維持していくんだという意識をもってください。地域のみなさんで皆さんで乗っていただきたい。市営バスを運行する日には、自家用車をやめて市営バスを利用するというような取組みもお願いしたいと申し上げております。

もう1点は、このようなバス減便などにより、地区からバスがなくなるのではないかと不安を持っているとお伺いしています。

市としましても、交通空白をできるだけつくりたくないという形で、生活に困らない形での運行を、地域の利用実態に合わせた形での運行をさせていただきたいとのお願いをいたしております。

会長 他にありませんか。それでは、和意谷線の減便については承認という形ではよろしゅうございますか。

委員 「よろしい」との声

#### (4) バス停の整備について(説明協議)

##### 《事務局からの説明》

伯父奥バス停と日生病院のバス停の整備案であります。

1箇所は、国道250号線、木生地区の下り線、伯父奥のバス停でございます。現在、既存のバス停(3.0m×1.3)がございますが、朝の通学時伊里小学校へ向かう小学生30名以上が利用しておりますが、待合スペースの歩道幅が、約1,3m程度しかなく、雨天時には傘をさして大勢が並ぶので、歩道から傘がはみ出してバスと接触する危険性があり危ないので、屋根を延長してほしいとの要望がございました。雨の日に現地の通学状況を確認したところ、1スパン(3.0×1.3m)の屋根が延長が必要であると判断しました。特にまだ、危険察知能力の低い、低学年の生徒などは、屋根の中に入って危険性を回避できればと考えております。

2箇所目は、日生病院のバス停でございます。日生病院の利用者(特に高齢者)からの要望であります。現在のバス停は、病院の玄関口から約20m~25m程度離れており、雨や夏の暑い日差し等を避けるために、病院の玄関口に待機していると、バスが来た

の確認していくのに、高齢者であれば、非常に時間もかかり、走ると危険でもあります。バスの運転手の方もよく玄関口を見てはいただいているようですが、すぐに乗っていただけないことから運行時間の遅れも懸念されるところでございます。このことから、現存のバス停の位置に、上屋付のバス待合所を設置したいと考えております。

以上2点については、来年度の予算に要望してまいりたいと思います。

以上で説明を終わります。

《質問・意見》

委員 伯父奥は1スパンとは、どれぐらいの規模か。

事務局 間口が3mで奥行きが1.3mです。

会長 バス停の整備についてはよろしいか。

委員 「よろしい」との声

その他

【定住自立圏構想における今後の取組みについて説明】

《事務局からの説明》

現在進めている東備西播定住自立圏について説明し、協定項目中の「結びつきやネットワークの強化にかかる政策分野」で地域公共交通においては、地域公共交通ネットワークの構築を行う。具体的には、「圏域内住民の移動手段を確保するため、圏域における公共交通の課題について継続的に調査、検証するとともに、バス路線の充実・構築及びJR山陽本線、赤穂線の利便性向上に取り組む。」としている。今後、圏域内で公共交通会議等を設置するかどうかはまだ決定していないが、何らかの形で具体化、検討して行く予定である。

【福祉有償運送について説明】

《事務局からの説明》

福祉有償運送を利用できる方、利用の方法、利用料金等について資料に基づき説明。備前エリアの登録法人としては、(福)備前市社会福祉協議会、(福)閑谷福祉会、(福)敬友会、(福)ひだすき、の4団体がある。利用者登録は、社会福祉協議会備前が58人、日生が82人、吉永が12人で、敬友会が18人、ひだすきが19人、閑谷福祉会が42人計231人である。自立歩行が困難で単独で公共交通機関を利用することが困難な方については、登録して利用できるこのような方法もありますのでお知らせいたします。

【バスダイヤ等に関する要望】

委員 片上発7時30分のバスが日生病院へ入らないので日生病院経由としてもらいたい。との利用者からの要望がある。検討してもらいたい。

事業者代表委員

この件は、以前より企画課の方からもお聞きしております。ご要望の便は、病院の開院時間前でもあることに加え、スクール対応の大型バスとなっており、日生病院へ入るのが難しい為、経路便としておりません。

委員 お年寄りには朝が早く、順番を取るために早くからロビーに並んでいる。何らかの方法で対応して上げてほしい。

運転者代表委員

駐車場のバスの運行通路確保が課題である。モラルの低いドライバーがいて、決められた駐車場枠内へとめない車があったり、バリケードをうごかされたりすると、バスが駐車場で立ち往生して運行に支障が出る可能性がある。そこらあたりを協力してもらいたい。

会長 駐車場内に入らずに対応するとか、その辺も含めて検討してもらいたい。

事業者代表委員

それら含めてもう一度検討してみる。

会長 他にはございませんか。

委員 その他の件で、閑谷学校にお客さんをご案内する時に、公共交通機関、バスがない。世界遺産を目指す閑谷学校である。福祉のことも大事だが、岡山県が観光立県、備前市も観光に力を入れていると聞いていますので、将来的に閑谷学校へバスを走らせるといった手立てはないか。

会長 路線バスは無いのか。

事務局 路線バスはありますが、便数が少ないということです。現在は利用者が極めて少ない状況です。利用者が多くなれば、増便ということにも繋がると考えられますが、現在のところそういった状況ではないというところでございます。

委員 1日何便ですか。

事務局 2便です。

会長 鶏が先か、卵が先かの議論。閑谷学校は櫛の木のシーズンに集中する。今後は世界遺産の登録に向けて関係機関と議論していく。運動の広がりを見ながら対応できればと考える。

委員 そういう機会をとらえて補充できる便もできればいいと考えます。

会長 そのほかありますか。

委員 今のバスの運行に対して市の負担はどれくらいか。

会長 路線バスでは市の負担は年間70,000千円、その他スクール等含めると年間合計100,000千円くらいか。

委員 民間も採算がとれてないバス等はやめたいとか思っていることも考えられる。もっと安くするのに、地域ボランティアを活用したような運行、みんなで知恵を出して、地域で助け合うような運行が可能なのかどうか。

専門員 地域で有償でやるか、無償でやるかで違いがあるが、現行法上は有償の取り扱いについて定めている。事故があった場合の責任の所在、被害に対する補償が必要ということから現状では、事業者にやっていただくのが第1の選択である。ただ法人は利益を出すために運行している。過疎地などでは採算が取れないので撤退ということもあり、平成18年の運送法改正により、市町村の行う市町村有償運送やNPOとかが行う過疎地有償運送が認められた。この二つを議論し尽くしていただく必要がある。

会長 委員のご提案はよくわかります。ただ、組織化して定期的に反復継続していくとなると、費用をどうする等、いろいろ問題がある。

会長 要望事項4点ほど、

西鶴山から備前病院へいく時、宇野バスへ乗らなければならないが、乗り場まで相当の距離があり、そこまで行くための交通手段がなくて困っている人たちがいる。

畠田、新庄、福田地区の方々からの要望

100円(ワンコイン)バスの要望

三石の五石地区にバスが入っていないのでバスあるいはデマンドタクシー等を運行してもらいたいとの要望

ブルーラインを活用した佐山鶴海から日生病院へのルートを新設してもらいたいとの要望

船の船賃軽減の要望

今後これらの課題を、この公共交通会議で提案していきたい。公平、公正で皆さんの不満の少ない形での交通施策をやっていきたい。

専門員 交通空白の要望に対応するのに市営バスが前提なのか、事業者活用が前提か。

会長 だれがやるかというのはいわなかったけれど、市営バスの場合もあるかとおもいますが、デマンドタクシー等については地元のタクシー事業者にお願いするという形がいいと考える。

専門員 声の大きい人の要望に応じて市域を網の目のように交通網を張り巡らせていくのは膨大な税金を投入しなければならなくなる。民間事業者は市営バスにはかなわないので、撤退してしまう。結果、幹線も市で運行せざるを得なくなったようなケースも岡山県内にとどまらず、全国的に問題になってきている。デマンドタクシーを委託するにも、ある特定の事業者にとってはいいかもしれないが、委託されなかった業者が、タクシー事業者として経営が成り立たなくなり廃業といったケースもある。困るのは、普段は市営バスなど安くなったと喜んでいても、バスの運行時刻以外、夜中などに急用ができた場合などに、周りにはタクシー事業者はいません。という状況も出てきている。その辺をよく考えていただいて、すべての交通空白を埋めることは不可能でありますので、総合的な交通体系についてこの会議で考えていっていただきたい。

会長 タクシー事業者等の調整が必要と考えている。

専門員 バスはあればいい。要望に応じて走った方がいいが、実際には人が乗っていない。そういう問題が多い。以前は足の確保は役所の仕事という部分があったのかも知れない。乗らないと運行は維持できないもの。住民の意識を変えるとといったことも必要。

会長 他にございますか。

事務局 市民の方々から様々な公共交通に関するご要望をいただいている。一件ずつ対応してはいるが、なかなか対応が難しいという状況である。今後は幹事会において、この公共交通会議で審議していただく議題などを決定してまいりたいと思います。

会長 他になければ副会長閉会のご挨拶を

副会長 今日は、暮れの忙しいところお集まりいただきありがとうございました。意見を聞いてみるといろいろ非常に難しいことが多いと思いますが、市も多くの財政負担をして公共交通を維持していることから、皆さんで知恵を出し合って少しでもよくなるようにできればと思いますので、みなさんよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

了